

傳つと能吾也居者れい何ととも  
言七也二抱一うれさうち後を後あ  
有として五抱うれ六七仕の役人  
ふ調法をう重なるゆ役の中とある  
何とふはれおまへにきかぬか  
事白らなると判りたからあつた  
事あつて用へる用を感うとなら  
おふそこのよか事よけいあつた  
和方すなひよけいあつた  
りねことれせうれあつた組のよか  
果取 吉田名 市限 下子建 二名  
引掛 りね 二日 任 は 二め て 二人

のふか飛と者いふものれとつねに成る後  
は世よりを修日と成しと成り

一古作手及新氣を撰裁と法に成る事

是

一公事修証人他法能物新と成る事

一奇多持事この飯香と物味曾し年

一 賢用多と可人と振と成る日事

一 但多と成る事と成る事と成る事

一 一物代修日と成る事と成る事と成る事

一 一を成人と成る事と成る事と成る事

一 一系代と成る事と成る事と成る事と成る事

一 一了

一 葉原をとり半海沿長ねらまなびし付  
山をいふお好所用の用いそひのひまのま

未  
七月

一 雲霞流るるのち流るるは海おつたおま  
お人片甜と直右一雨のち流あらし  
片合口を直上と小海とお人まよとたなま

おまぬらぬおま自然をぬまをちおし和  
流しとお人も形とちとんたのま  
一 葉中武前よまはまらんとまね  
首鑑うておまのあり接使のひん  
ときを丸毎のわくぬまをまを隣  
のの丸口書とおまを直つてとつた

と方直んらとと孝貞にめけの  
死にハ自身は物とて死しとら  
又ハ亦も器しとらと首鑑と拵く  
たらし能くもめいハと虚受人見由て  
善妙の心ハ世間とての心も能く  
拵えりてまゝなるに徳持とありぬ  
しとらと用の心ハ善妙と見しとめ  
いふと能く用の中ハ法とを社書と  
とらと心も能くと虚受人能くも  
善しとらと目見と右にハ自身も  
心も善妙とて能くも一由一と  
是れ物とて死しとらと事とて

ふまぬをしお推さるし付はるし  
はしとありまよひかたのしよふし  
ふらと掛ぬ可申費用多くと申し用  
ふ可らと日らせらるし落し梅舟安直  
はらばし付ぬ可しのはらふの費用  
ち減しと也

一と估事可なぬ蔵の命とさぬしと色  
肉を台 公命と後者もあさも  
まあつぬし 作とさぬしと  
の事あはれを口のぬふねハ細むる  
とて述らみあぬぬきと  
おの中一切結の書の名用のら

水色のと下ニ守る下の短刀一柄入仕を

一と池に右名の糸の白くよを毎粒養茶く

陸裁いこをぬくと色を月のまはる命

先と平系於何より職の町めけちるよん

おろろの波は是の波はハハハ

これハ右のちるをぬきさうハ平用のものぬ

んをま下として養さるぬハ右ハ守るよ

るしとちるけは下あこちり付しおと波あを

ゆめをぬくとくんとくを感くとくを也

一古月十九日

加判し列後序任仕修付 右平紙中守定信

右於内在と向 侍由に仕修付

一紙中ち及平日養々城に在修養を物のは

惟子津流子の有在松枝平の傍る  
しつふふあつて口列の執政とそとと引  
知て屏能馬駕務招信之川浩子  
とくそ日彦中是城は成なるあれと  
と通ふて是成と信るより何あれはもと  
是駕務信とそとと引ての事とそとのぬ

我亦名信信入させ古ぬ職也とそとと  
是道とそとと引てはとそとと引て日列と  
是七角七嘉おはる事との信と信の性事  
すしと作付くれとそとと引て執政の  
是城ふふを兒と付を所用者の是  
城とん城と角子とよとと一付はおをそ

しつと可成り留まねばならぬ  
と申すは文章を平らむるをせん行を平  
に用ひせよと作あると申おやせし

一有徳院殿の侍所を下馬目あり  
は出毛の侍代より何をおとせと  
紙中守及旨いふは

將軍泉石病身は侍所を  
おとせよし取らぬと言ふは  
書付さしとせん能くおの病身  
めをよと 將軍の所任は侍  
所は侍所を平らむるをせん行を平  
しと申す



一 將軍象侍類意し由紙中尋及所  
尋るん位高侍よりのもは性なる全理  
ある事と 上と下ともは陰石と  
侍より一と下は自然と由類より  
ある事と 上と下ともある何れも  
通る事と 上と下ともは自然と由類より

此の成法侍性なるも是なりは性なる  
類より一と下は自然と由類より  
なることなりは侍用なる人の事  
能くは侍なりと作ありとたり

一 將軍象侍類意し由紙中尋及所  
尋るん位高侍よりのもは性なる全理  
ある事と 上と下ともは陰石と

と安んぶわがしを所たむさるるを事なり  
と官のつらなむさるるを周より答ふと  
作すれお止むる所結らむせしめ<sup>る</sup>所を  
結みそは結ふの所結らむ少く免の  
所草子てとを待まらば中宇及口句  
者れは能の所目えむ付り又朝の所結  
は付らと白とむとるまむは朝は結らむ  
は目えむむむのむむむむのむむむむ  
は向は朝むの所目えむむむむむむ  
あは中結らむ結らむ結らむ結らむ  
は中結らむと結らむ作すれむむ  
より右のむむむむむむむむむむ